



開物成務

令和 6 年 11 月 1 日 (金) 発行

校長 津田 千由美

運動会成功の鍵

暑くも寒くもなく、ちょうどよい天気のもと、運動会が開催されました。早朝より多くの保護者の皆様にお越しいただき、子どもたちにあたたかな声援を送っていただきました。ありがとうございます。

さて、今年度から紅白対抗戦になり、児童会テーマ「一致団結」を目標に、子どもたちは1か月余り練習に励んできました。私たち教職員は、子どもたちがより主体的に参加できる運動会を、さらには運動が得意な子も苦手な子も、集団生活になじみにくい子も、誰もが何らかの形で参加できる運動会をめざしてきました。運動会を創りあげていく中で、様々な困難や課題がありましたが、当日の子どもたちの姿は大変すばらしかったと思います。

閉会式で教頭先生がすてきな話をしてくださいました。

「赤組さん、白組は負けてしまったけれど、白組のみんなが頑張っていたと思う人は、拍手をしてください」

「白組さん、悔しいかもしれないけれど、優勝は赤組です。おめでとうの気持ちを拍手で伝えてください」

ラグビーでいえば、「ノーサイド」の瞬間です。両方のチームから、互いの健闘を称え合う大きな拍手が沸き起こりました。クラスを二分する紅白合戦に教職員の中にも賛否両論ありましたが、子どもたちに、こうした「ノーサイドの精神」(試合が終われば自陣と敵陣のサイドはなくなり、勝った側も負けた側もないという精神)を学ぶ場を提供できたことは、一つの成果です。

また、児童の安全や感染症対策のために、門の施錠や入校許可証の申請等にご協力をいただきました。保護者の皆様には心より感謝申し上げます。優先エリアの活用や地域の方々の参観等、いくつかの課題が浮彫りになりましたが、PTAとも協力しながら来年度の運動会にさらなる改善を図ってまいりたいと思います。ご感想やご意見等がありましたら、担任を通じてご連絡いただけると幸いです。

○1年生

何もかもが初めての運動会。だからこそ、練習にはとても一生懸命に取り組みました。

全体練習ではどの学年よりも一番早く整列し、静かに待つことができました。運動会の歌を歌う場面でも、元気よく一番大きな声で出していたのは1年生でした。



○2年生



練習では、バンダナが何度もとれてしまうハプニングがありましたが、最後まで踊りきる姿が印象的でした。一人ひとりが踊ることを楽しんでいた証拠です。

リズムよくメリハリのある動きが、とてもすてきでした。

○3年生

中学年の仲間入りをし、徒競走では初めてコーナリングを体験しました。友達のコースに入らないようにしっかりと前を見て走ることを意識しました。

去年よりも走る距離が30mも伸びましたが、全員がゴールを目指して全力疾走しました。



○4年生



「4年生になったらソーランができる」

開成小学校の子どもたちに脈々とつながる伝統です。クラスの「文字」を決めた際には、自分の希望が通らずに残念が

っていた子どももいましたが、気持ちに折り合いをつけました。最後のクラスごとの決めポーズ、自信のみなぎる表情がかっこよかったです。

○5・6年生

運動会成功の鍵を握るのは、高学年の子どもたちです。組立体操にかける子どもたちと先生方の熱意は大変熱く、毎日毎日練習に取り組んでいました。高学年は、これと並行して、いろいろな仕事を担っていました。決勝審判や得点係、運動会の歌の指導、開閉会式の司会進行、各学年が使う道具の準備、応援団結成、グラウンドの石拾いなど、各委員会の活動を一人ひとりが確実に行う姿を見ることができました。高学年としての自覚と成長を感じました。



校外学習～スポーツの秋から勉学の秋へ～

運動会を終え、次の楽しみは「校外学習」です。社会科や生活科、総合などの学習と結びつけて実施します。今年度の各学年の行き先は次のとおりです。

学年	実施日	予備日	行き先
1年生	11月1日(金)	11月13日(水)	秦野市中央こども公園
2年生	11月14日(木)	11月29日(金)	わんぱくランド 予備日：彫刻の森美術館
3年生	11月26日(火)	雨天決行	横浜子ども科学館・神奈川県警察本部
4年生	11月8日(金)	雨天決行	箱根
5年生	11月21日(木)～22日(金)		ふれあいの村(林間学校)
6年生	12月11日(水)	雨天決行	キッザニア

当日は、お弁当・水筒の準備をお願いします。延期の際にも給食がありませんので、忘れずに持たせてください。子どもたちにとっては手作り弁当も楽しみの一つです。ご協力よろしくお願いします。

わたしのひとりごと

本校の教育相談コーディネーター香川先生から、とても素敵な言葉をいただきました。

「意欲の扉はその子自身しか開けられない」

この言葉を聞いて、私は小学校6年生の時のことを思い出しました。

当時、学芸会がありました。私は主役の女神役になりたくて、毎日台詞の練習をしていました。オーディション当日、自分の中では最高の出来栄え。しかし、女神役には選ばれませんでした。気持ちを切り替えて、第2候補の役に挑戦しました。でも、落選してしまいました。もう私には、舞台に出る役は残されていません。

一晩泣き明かした私は、担任の先生に「もうやりたくない」と書いた日記を提出しました。先生から放たれた一言、「あなたの考えはわがままです。」私は打ちのめされてしまいました。

話は少し変わりますが、先日行われた運動会。特に運動が苦手な子や集団生活が苦手な子ども達にとっては大変高いハードルだったと思います。それでも何らかの形で参加することができたのは、見守る大人たちが、結果ではなく、チャレンジした気持ちや頑張ったプロセスにフォーカスし、背中を押してあげたからではないでしょうか。人と比べなくても良いのです。望んだ結果が出なくても良いのです。プロセスを評価する言葉がけは、子どものレジリエンス(心の回復力やしなやかさ、打たれ強さ)を育てるのだそうです。

傷心の私に母がかけてくれた言葉

「主役になることがすべてではないよ。あなたが、こうしてチャレンジしたことには価値があるんだよ。」

きっとこの言葉のおかげで、私の意欲の扉は開かれたのだと、今さらながら気づきました。

プロセスにフォーカスすることは、意欲の扉を開く鍵になりそうです。

